

工業合金三芳

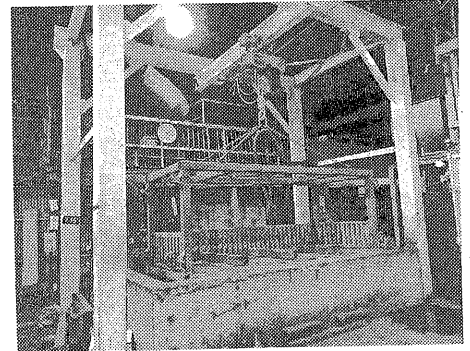
大型品生産体制構築へ

本社・朝霞工場を増強

銅合金の鑄造品・鍛造品などを製造する三芳合金工業（本社・埼玉県三芳町、社長・萩野源次郎氏）は2025年内をめどに大型品の生産体制を構築する。約1億円を投じて

本社工場と朝霞工場（同県新座市）の両製造拠点で、大型品に対応したクレーンなどを導入。これまでの2倍となる約3トの製品を製造可能にする。提案力の強化を狙い。国内

外の金型や産業関連分野での需要を見込む。大型品は製造可能な企業が少なく付加価値が高く、ニーズがある。本社工場では熱処理後の製品を冷却プールに入れる工程で4・8トの重量に対応するクレーンをこのほど導



本社工場に導入した4・8ト対応のクレーン

入。朝霞工場では溶解炉2基分の溶湯や金型などを運ぶ用途で、年内にも15トの重さに対応したクレーンを導入する計画。現在設計を進めており、基礎工事も実施する。

大型品の製造体制を整えることで、これまで分割した形状で同社

の材料を購入していた顧客に対し、一体での提案ができるなどのメリットがある。一体形顧客基盤の拡大にもつなげたい考えだ。

目を減らして信頼性を高められる。また提案の幅を広げることで顧客基盤の拡大にもつなげたい考えだ。

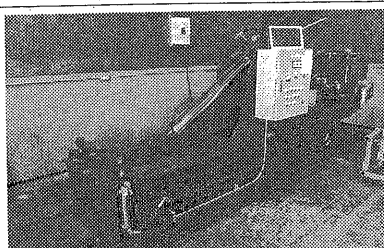
理して溶解炉に投入しやすかったリサイクル原料は、同県新座市の朝霞工場で使用している。金属価格が上昇している中、リサイクル材使用拡大の利点は大きいという。

工業合金三芳

「原料用プレス機」導入 リサイクル材使用拡大

三芳合金工業はこのほど、原料用プレス機を導入した。自社の工程で発生する銅合金のくずなどを圧縮し、塊に加工するた

めに用いる設備。導入によりリサイクル原料の使用量を増やすことで、コスト削減や環境



自社内から出る再生原料は銅以外のさまざまな合金成分も含めて再利用できることがメリット。導入したアリゲータプレスと呼ばれる設備は本社工場に設置している。プレス処